

# 小林恭一教授が 日本建築学会教育賞を受賞！

—高齢者福祉施設における実践的な火災安全思想の啓発・教育活動—



左は、日本建築学会教育賞を受賞した「老人福祉施設の避難安全に関する研究会」（NPO法人日本防火技術者協会）のメンバー。最前列左端で座っているのが小林先生。上は、施設で訓練指導を行う小林先生。

去る5月30日に、「近代消防」編集委員である小林恭一先生（東京理科大学大学院教授）が、NPO法人日本防火技術者協会の「老人福祉施設の避難安全に関する研究会」のメンバーとして、今年度の「日本建築学会教育賞（教育貢献）」を受賞されました。受賞業績は、「高齢者福祉施設における実践的な火災安全思想の啓発・教育活動」です。

小林先生は、東京理科大学教授になられた直後の6年前から同研究会に参加され、総務省消防庁時代に自ら作られた「社会福祉施設及び病院における夜間の防火管理体制指導マニュアル」の考え方を基本として、研究会メンバーとともに、ボランティアとして各地で高齢者福祉施設の防火管理者の講習会で講義したり、施設に出かけて出前講座や訓練指導を行ったりする活動を続けて来られました。

東京では当初から東京都社会福祉協議会と協力して講習会等を実施して来られましたが、昨年度は熊本市や札幌市の消防局の協力を得て、寒冷地など、東京以外の地域の実状を反映させることにも取り組まれました。また、お母様が入所されていた有料老人ホームで出前講座や訓練指導を行うなどの活動もなさっておられます。

これらの経験の蓄積を踏まえ、最近では、従来のマニュアルの考え方をさらに発展させた「居室待避型避難」の考え方も提唱されておられます（本誌平成23年6月号「もし火災が発生したら～福祉施設における職員の行動～」参照）。

また、高齢者福祉施設の状況、訓練の実態、関係者との懇談などから得られた知見を踏まえ、他のメンバーとともに、「特別養護老人ホーム等で夜間に火災が発生した時どう行動すべきか～実践的な防火・避難マニュアルおよび同解説～」を作られました。このマニュアルは、弊社から出版する予定です。

総務省消防庁退官後に、その経験を活かして教育と社会貢献に取り組み、建築学会教育賞を受賞されるに至った小林先生の活動に敬意を表するとともに、消防関係者としても喜びたいと思います。

## 小林恭一教授のプロフィール

「近代消防」編集委員。東京理科大学大学院国際防災科学研究科教授。1948年千葉県生まれ。東京大学建築学学科を卒業し73年建設省入省。80年に自治省（現総務省）消防庁に移り、東京消防庁、静岡県防災局にも勤務。予防課長を務めるなど、長く予防行政に従事。2006年国民保護・防災部長を最後に退官。08年に東京大学で博士号（工学）を取得し現職。研究テーマはアジアの防火法令の比較研究など。現在、消防職員を対象にした無料の「予防塾」を開講中。退官後は団地自治会の防災部長も。